心の声に従った
人生４度の方向転換

工学→哲学→プログラマー→塾講師→…

私はもともと経済学部の出身ではありません。大阪・岸和田に生まれ、京都のある大学の工学部（航空工学科）を卒業した後、半分以上の学生が進学するので私もそのまま大学院に入ったのですがそのころには自然科学への関心が薄れてしまい、哲学や社会学などに興味を持つようになりました。そこで大学院を１年で中退し、文学部の哲学科に学士入学（3 年次編入）しました。実は工学部にいる間にも理学部に転学部して物理学をやってみようと思ったり、法学部へ移って政治学を勉強しようと思ったりしたこともあります。特に法学部には転学部寸前まで行ったのですが、ある先輩に止められてやめました。

さて、哲学科に入ってドイツ語でカントやショーペンハウエルなどを読み始めたのですが、その関心も長く続かず

田中 靖人
Yasuhito Tanaka

[研究テーマ]
ミクロおよび応用ミクロ経済学

2、3 か月で大学に行かなくなってしまいました。「こんなことをしていては親に迷惑をかけるばかりだ」と思い、一念発起。この際就職しようと、当時から発行されていたリクルートブックを参考に、大阪、名古屋、東京と会社回りをした結果、東京・五反田の小さなコンピュータソフトの会社に入ってプログラマーになりました。

インターネットのホームページによるとその会社は今もあり、そこそこに発展しているようです。しかも 40 年前の社長が今は会長をしています。当時はまだパソコンもありませんでしたし、現在ほどコンピュータ教育が普及していなかったので、経験や予備知識がまったくなくても就職できました。大学院をきちんと修了していれば大学の推薦でもっと大きく有名な企業に就職できていたかもしれませんが、そうすると今の私はありません。そのようにしてせっかく就職したのですが、その仕事も長く続きませんでした。1 年ほど経ったころに、京都にいた時の知り合いから「東京で一緒に学習塾をしないか」と誘われ、うっかりそれに乗ってしまったのです。

そして「趣味」で学び始めた経済学

経済に興味を持ち始めたのは、コンピュータの会社にいた時です。当初は社会人になったので現実経済や会計の初歩を勉強しようと一般向けの経済書や簿記・財務諸表論の入門書などを読んでいたのですが、学習塾を始めたころから関心が学問としての経済学に移っていき、塾の仕事の傍ら経済学の本を読んでいました。しかし体系的に

経済学を学ぶつもりではありませんでしたし、ましてそれを仕事にしようなどとは夢にも思わず「趣味の読書」として読んでいただけでしたので、教科書はまったく読まず、書店で見かけた有名そうな外国書の翻訳、たとえばケインズ（*1）『一般理論』、ヒックス（*2）『価値と資本』、ハロッド（*3）『経済動学』やミルトン・フリードマン（*4）の本などを読んでいました。ろくに経済学の予備知識もなかったので内容はよくわからなかったのですが、経済学の雰囲気を味わうことはできたように思います。

そうこうするうちに 1 年が過ぎて、中学生や小学生を相手にする塾の仕事に行き詰まりを感じるようになりました。ここで何とか新しい道を切り開かなければいけないと思ったのですが、普通に就職し直すこともできません。こうなったら趣味で始めた経済学で何とか飯が食えるようにするしかないと考え、経済学の大学院（横浜国立大学）を受験して幸運にも合格した時から、私の経済学者としての人生が始まったのです。すでに 27 歳でした。

---

*1【ケインズ】John Maynard Keynes（1883 ～ 1946 年）。イギリスの経済学者。不況期における財政政策の有効性を説いた。マクロ経済学を開拓した人物である。

*2【ヒックス】John Richard Hicks（1904 ～ 1989 年）。イギリスの経済学者。代替効果、所得効果の概念など現代ミクロ経済学の基礎を構築するとともにマクロ経済学の IS-LM 分析を発明し，1972 年にノーベル経済学賞を受賞した。

*3【ハロッド】Roy Forbes Harrod（1900 ～ 1978 年）。イギリスの経済学者でケインズに師事した。経済成長理論のハロッド・ドーマーモデルを創始したことで有名。

*4【ミルトン・フリードマン】Milton Friedman（1912 ～ 2006 年）。アメリカの経済学者。貨幣を重視する反ケインズ派、マネタリストのリーダーであり、1976 年にノーベル経済学賞を受賞した。

４度の方向転換で見つけた「最善の道」

大学院を終えた後、まず東北・山形の山形大学人文学部に就職しました。関西人にとってはいささか寒い所でしたが、新婚ホヤホヤで山形に行ったということもあって楽しい思い出ばかりです。温泉、冬の雪、蔵王のお釜（火口湖）、月山（がっさん）、鳥海山の山々や、そば、さくらんぼ、ラフランス（洋梨）のおいしさなどが印象に残っています。今も２時間ドラマや旅の番組で山形の風景が出てくると、とても懐かしく感じます。その後、東京・八王子の中央大学法学部を経て同志社大学に呼んでいただきました。四半世紀の時を経て京都に戻ってきたことになります。

大学院に入る前はマクロ経済学（特にケインズ経済学や経済成長論）に興味を持って勉強していたのですが、大学院に入ってからは指導を受けた先生方や周囲の大学院生からの影響もあって、ミクロ経済学を研究するようになりました。その時どきの関心から寡占理論、不完全競争のもとでの貿易政策の理論、進化ゲーム理論とその寡占理論への応用、社会的選択理論（社会や集団における意思決定ルールの性質について研究する分野）などを研究してきました。

人生「一度決めたら二度とは変えぬ」というのが理想かもしれませんが、なかなかそうもいきません。経済学にたどり着くまでの５年間に４回方向を変えました。生きたいように生きてきた「結果オーライ」の人生ですが、そのつど自分にとって最善の道を選んできたつもりです。私の人生は、経済学によって生き返った人生であるといえるでしょう。